

# SBIインド & ベトナム株ファンド

追加型投信/海外/株式

## 交付運用報告書

第24期(決算日:2019年6月4日)

作成対象期間(2018年12月5日~2019年6月4日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIインド&ベトナム株ファンド」は、2019年6月4日に第24期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてマザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの株式等に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

### 第24期末(2019年6月4日)

基準価額	10,617円
純資産総額	9,332百万円
第24期	
騰落率	0.2%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木 1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間: 営業日の 9:00~17:00

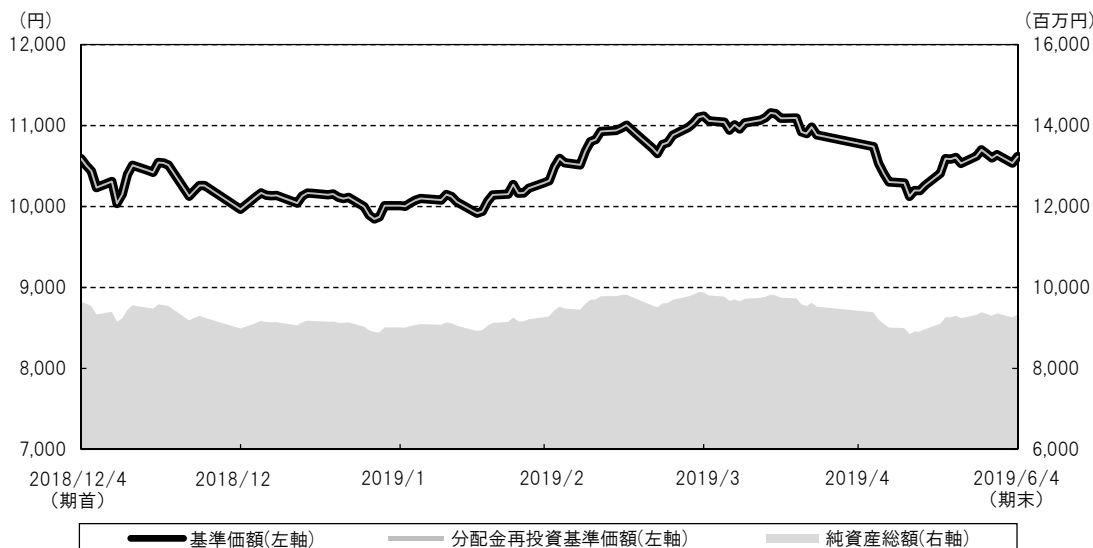
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

## 運用経過

## 基準価額等の推移

(2018年12月5日～2019年6月4日)



期 首：10,592円

期 末：10,617円 (既払分配金(税込み):0円)

騰 落 率： 0.2% (分配金再投資ベース)

- (注1) 当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの2カ国の株式等に投資するファンドのため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、期首(2018年12月4日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

## ○基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は、外国為替市場で円高が進行し、ベトナム株式市場は下落したものの、インド株式市場が堅調に推移したことにより、上昇しました。2018年12月から2019年1月末にかけては、ベトナム株式市場が比較的堅調に推移した一方、世界的な株安基調や、インド・パキスタン間の地政学リスクの高まりに伴う投資家心理の悪化によりインド株式市場が下落したため軟調に推移し、基準価額は当期最安値の9,846円となりました。通貨インド・ルピーやベトナム・ドンには円高基調の推移となりました。しかし、3月以降はインド準備銀行の追加利下げや、インド下院総選挙でのモディ政権の続投期待、良好な中国の経済指標を背景とした世界景気の減速懸念の緩和などにより堅調に推移したことに加えて、通貨インド・ルピーやベトナム・ドンが安定して推移し、1月下旬から10%近い上昇となりました。4月末から5月上旬にかけては、株式市場は比較的安定していたものの、為替が大きく円高に振れたため、軟調に推移しました。その後は、インドの下院総選挙でモディ首相率いるインド人民党が単独過半数の議席を獲得したことにより大きく反発したことがプラスに寄与し、当ファンドの基準価額は反発基調となり、決算日である6月4日の基準価額は10,617円と、期を通じて+0.2%の上昇となりました。

## 1 万口当たりの費用明細

(2018年12月5日～2019年6月4日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	113 ( 69 ) ( 39 ) ( 5 )	1.077 (0.657) (0.377) (0.043)	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率  委託した資金の運用の対価  交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価  運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	10 ( 10 )	0.093 (0.093)	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料です。
(c) 有 価 証 券 取 引 税 ( 株 式 )	7 ( 7 )	0.068 (0.068)	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金です。
(d) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 ) ( 監 査 費 用 ) ( そ の 他 )	15 ( 7 ) ( 1 ) ( 7 )	0.143 (0.068) (0.012) (0.063)	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数  保管費用は、海外における保管銀行に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用  監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用  インド株式の売買益におけるキャピタルゲイン課税等、信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	145	1.381	
期中の平均基準価額は10,451円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2014年6月4日～2019年6月4日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年6月4日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年6月4日 決算日	2015年6月4日 決算日	2016年6月6日 決算日	2017年6月5日 決算日	2018年6月4日 決算日	2019年6月4日 決算日
基準価額 (円)	6,892	8,824	7,901	9,887	10,963	10,617
期間分配金合計(税込み) (円)	0	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	18.0	28.0	△ 10.5	25.1	10.9	△ 3.2
SENSEX 指数騰落率 (%)	24.6	21.6	△ 18.3	26.0	7.4	8.8
VN 指数騰落率 (%)	10.4	20.7	△ 7.8	21.3	31.6	△ 8.6
純資産総額 (百万円)	8,574	10,390	8,317	9,799	10,233	9,332

- (注1) 当ファンドは、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として、インドでは SENSEX 指数<sup>※</sup>、ベトナムでは VN 指数<sup>※</sup>を記載しております。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- ※各指数は円建て

## ●代表的な指数に関して

- ・SENSEX 指数は、インドのムンバイ証券取引所に上場する銘柄のうち、流動性・取引規模・業種等を代表する 30 銘柄で構成された時価総額加重平均指数のことで、インド株式市場の代表的な株価指数です。
- ・VN 指数は、ベトナムの最大都市ホーチミンにあるホーチミン証券取引所に上場の全銘柄から構成される時価総額加重平均指数のことで、ベトナム株式市場の代表的な株価指数です。

## 投資環境

(2018年12月5日～2019年6月4日)

### ○インド株式市場

(2018年12月)

・月内はボラティリティが高く、前半は州議会選挙の政権与党の苦戦や、インド中央銀行総裁の突然の辞任により下落しました。中旬に次期中央銀行総裁が任命されたことで上昇したものの、下旬は米国株の大幅下落の影響を受けました。

(2019年1月)

・米連邦公開市場委員会(FOMC)において利上げの一時停止が示唆されたことや、インドの国内消費の活性化に向けた予算案の発表期待から、大型株を中心に上昇しました。

(2月)

・インド準備銀行による緩和的政策期待から、株式市場は上昇しました。しかし、中旬に発生したカシミール地方でのテロ事件により、インド・パキスタン両国間における緊張が高まったため、投資家心理が悪化し、株価は反落しました。

(3月)

・5月に予定されているインド下院総選挙でモディ政権が続投するとの期待が高まったことや、インド準備銀行による追加利下げへの期待により、株式市場は堅調に推移しました。

(4月)

・方向感はなかったものの、上昇して月末を迎えました。原油価格の上昇やモンスーンの降雨量が例年を下回るなどの予測からインフレ懸念が強まり、株式市場の重しとなりました。

(5月)

・月初は米中貿易摩擦の激化懸念により下落しましたが、その後はインドの下院総選挙でモディ首相率いるインド人民党が単独過半数の議席を獲得したことにより、大きく反発しました。

### ○ベトナム株式市場

(2018年12月)

・月初は米中貿易摩擦への懸念が緩和され、株式市場は上昇したものの、中国の経済指標の軟調を契機とした世界経済の成長減速懸念から、下落して月末を迎えました。

(2019年1月)

・主だった材料はなかったものの、外国人投資家動向が月初から4週連続の買い越しとなり、株式市場は上昇して終わりました。

(2月)

・旧正月(テト)明けから買いが続き、米中貿易摩擦に関して対話が進むという期待感から大型株を中心に資金が流入し、上昇して月末を迎えました。

(3月)

・良好な経済指標と企業業績への期待を背景に上昇しました。

(4月)

・消費者物価指数や鉱工業生産指数、小売売上高は好調だったものの、緩やかな下落となりました。

(5月)

・経済指標は良好だったものの、軟調なグローバル株式市場の影響を受けて、売り優勢の展開となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2018年12月5日～2019年6月4日)

## ＜当ファンド＞

「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」といった各受益証券を通じ、主としてインド及びベトナムの株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

## ＜ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、おおむね95%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は99.3%となっております。

## ＜LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

運用の再委託先であるLGM・インベストメンツ・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、おおむね95%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は96.7%となっております。

## ＜SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

インドの証券取引所で上場または取引されている株式等を主要投資対象とし、収益性や成長性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、おおむね70%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は87.5%となっております。

## ＜SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

ベトナムの証券取引所で上場または取引されている株式等を主要投資対象とし、収益性や成長性及び流動性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資いたしました。

株式等の組入比率に関しては、おおむね95%以上の組入比率を維持しました。期末の株式等の組入比率は96.4%となっております。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

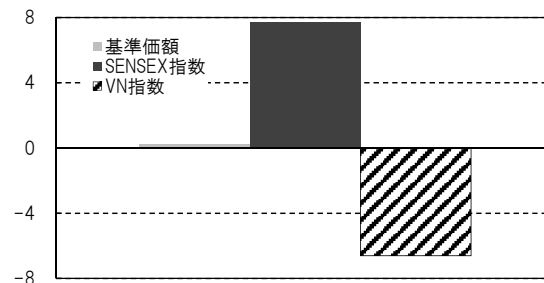
(2018年12月5日～2019年6月4日)

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの2カ国の株式等に投資するファンドのため、ベンチマークは採用しておりません。

また、適当な参考指数もないことから当ファンドの基準価額と、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数としてインドでは SENSEX 指数<sup>※</sup>、ベトナムでは VN 指数<sup>※</sup>を記載しております。

※各指数は円建て

(%) 基準価額と代表的な指数の対比(騰落率)



第24期  
(2019年6月4日)

## 分配金

(2018年12月5日～2019年6月4日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第24期
	2018年12月5日～ 2019年6月4日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,285

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金(税込み)と一致しない場合があります。

## 今後の見通しと運用方針

### <当ファンド>

引き続き「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」の各受益証券を通じ、主としてインド及びベトナムの株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ってまいります。

### <ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドは以下のようにコメントしています。

インドの下院総選挙でモディ首相率いるインド人民党が単独過半数を獲得し、政権が継続することは、企業の景況感や金融市場に対する投資家心理を下支えする可能性があります。我々は、法人向け貸出に対する不良債権の引当金減少や、企業の設備投資サイクルが潜在的に転換点を迎えていることなどから、2020年度にはインド企業の利益が成長すると予想しています。過去数年間にわたって、インドの株式市場は成長に恵まれ、一部の株式は成長の予測可能性と一貫性を背景に高く評価されていました。すべての銘柄が利益成長することは難しいものの、“質の高いグロース銘柄”の選択は長期間にわたって機能しています。また、利益率や利益成長の好転が他の銘柄にも広がり、トレンドの変化が進行しています。

MSCIインド指数のバリュエーションは平均を上回っており、MSCIインド指数は来期予想利益の18.5倍程度で取引されています(10年間の平均に対して最大19%のプレミアム)。過去18カ月間の中小型株の大幅な低迷は、優良な株を魅力的なバリュエーションで購入できる良い機会を我々に与えています。ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定を続けることが収益機会を得る最良の方法だと我々は考えています。

### <LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるLGM・インベストメンツ・リミテッドは以下のようにコメントしています。

世界第7位の経済規模を持つインドは、「真の」新興国市場です。1人当たり国内総生産(GDP)は2,000ドルを下回っているものの、経済の急成長は続いています。健全な民主主義や効果的な政策決定に加えて、好ましい人口動態やマクロ経済の改善は、インド経済や株式市場の見通しを長期的に下支えしています。我々は、引き続きインドには長期的な投資機会があり、質の高いインド企業は魅力的な投資先と考えています。

我々の短期的な投資戦略は、インドの長期的な成長見通しを捉えるものになっています。引き続きボトムアップ・アプローチにより質の高いインド企業への長期投資に注力する方針です。我々は、投資先企業の質を重視する投資哲学やボトムアップ・アプローチを採用し、国内重視のインド企業を選好していることから、生活必需品、一般消費財関連、金融の組入比率を高め、エネルギー、公益事業、ヘルスケア、IT、通信の組入比率を低下させています。



### <SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

インド下院総選挙の与党勝利やインド準備銀行による利下げが好感されたものの、材料出尽くしによる利益確定売りもあり、直近は一進一退の展開となっています。今後の見通しとしては、一人当たりGDPの増加による消費拡大、金融セクターの成長、政府によるインフラ投資の拡大、繊維や特殊化学製品の輸出の拡大により、引き続き高水準の経済成長率が続くと思込まれます。また、インド国内の投資家によるインド株の買い越し基調が続いていることに加えて、海外機関投資家の資本が流入に転じていることから、中長期的には緩やかに上昇していく展開が想定されます。

以上の見通しにより、インド株を主要投資対象とする上記の各受益証券については、対純資産比率で80%前後の組入比率を目標として運用する方針です。

### <SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

ベトナム経済は引き続き好調を維持しており、2018年のGDP成長率は前年比+6.6%、2019年は同+6.6%の高成長が続く見込みです。ベトナムは中国が最大の輸出先ですが、米中貿易摩擦での関税を回避するために、生産拠点を中国から他国に移設する恩恵を受ける有力候補と考えられています。外国からベトナムへの直接投資の加速を通じて、中長期的には上昇基調が続くと予想されます。

以上の見通しにより、当面は対純資産比率で10-15%前後の組入比率で運用を行います。必要に応じて、銘柄入れ替えを行いながら運用する方針です。

※上記見通しと運用方針のうち、「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」については、それぞれ運用の再委託会社であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッド、LGM・インベストメンツ・リミテッドからのコメントをSBIアセットマネジメントにて和訳したものを記載しております。

## お知らせ

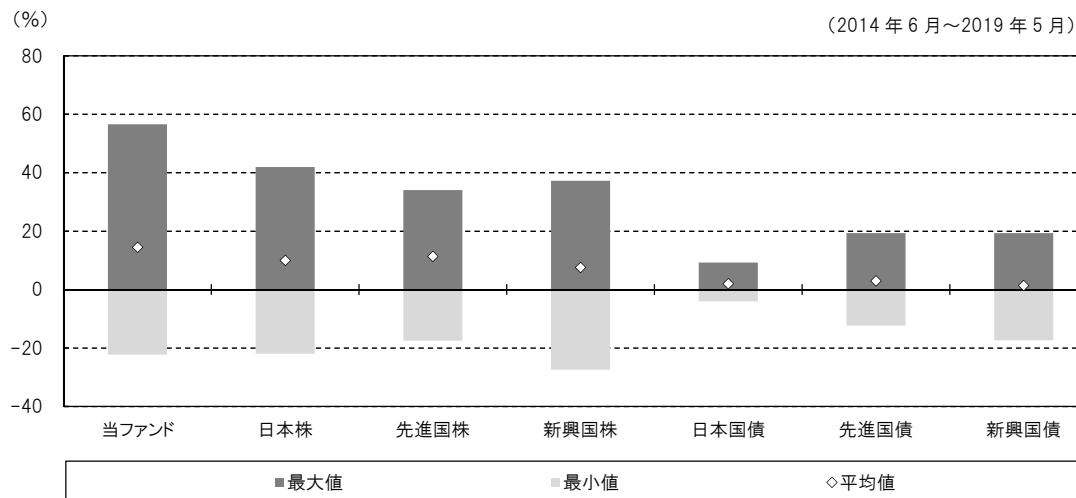
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	原則として無期限(クローズド期間はあります)	
運用方針	ファミリーファンド方式により、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」受益証券(以下「マザーファンド」といいます。)を主要投資対象とします。
	L G M インド株・マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みません。)を主要投資対象とします。
	ステイト・バンク・オブ・インド株・マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みません。)を主要投資対象とします。
	S B I A M インド株・マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みません。)を主要投資対象とします。
	S B I A M ベトナム株・マザーファンド	ベトナムの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みません。)ならびに当該株式の値動きに連動する債券、新株引受権証券等を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	各マザーファンドを通じて主にインド及びベトナムの株式に投資を行います。マザーファンドへの投資割合には制限を設けません。ベトナム株への実質的な投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産において、原則為替ヘッジは行いません。	
分配方針	毎決算時(毎年6月4日及び12月4日。ただし、休業日の場合は翌営業日。)に、原則として分配方針に基づき収益分配を行います。分配対象額は、信託財産に属する配当等収益(配当金、利子及びこれらに類する収益から支払利息を控除した額をいいます。以下同じ。)とマザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額(以下「みなし配当収益」といいます。)及び売買益(評価益を含み、みなし配当収益を控除して得た額)との合計額から諸経費等を控除した金額の範囲とします。委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	56.5	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 22.2	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	14.5	10.0	11.4	7.6	2.0	3.0	1.4

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2014年6月から2019年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注4) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株:東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株:MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株:MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)

日本国債:NOMURA-BPI 国債

先進国債:FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債:JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数についての詳細は、最終ページをご参照ください。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2019年6月4日現在)

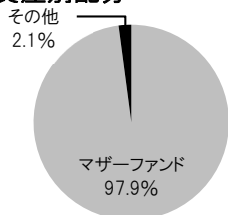
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第24期末
	%
ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド	30.7
LGM インド株・マザーファンド	30.0
SBIAM インド株・マザーファンド	21.4
SBIAM ベトナム株・マザーファンド	15.8
組入銘柄数	4銘柄

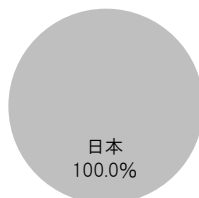
(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

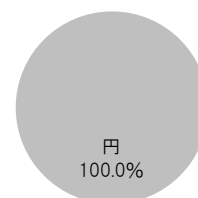
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分は組入株式評価額に対する比率です。

## 純資産等

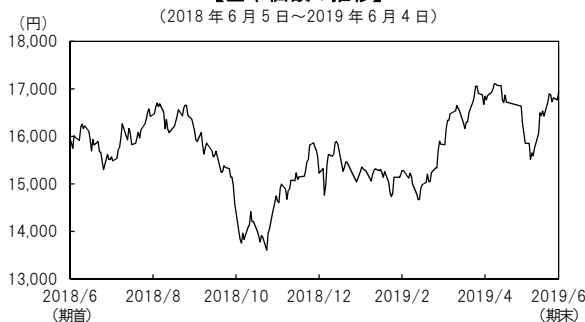
項目	第24期末
	2019年6月4日
純資産総額	9,332,658,689円
受益権総口数	8,790,183,749口
1万口当たり基準価額	10,617円

(注) 期中における追加設定元本額は571,988,947円、同解約元本額は884,065,242円です。

## 組入上位ファンドの概要

## ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年6月5日～2019年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	22 ( 22)	0.138 ( 0.138)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	19 ( 19)	0.118 ( 0.118)
(c) その他費用 (保 管 費 用) (そ の 他)	92 ( 21) ( 71)	0.586 ( 0.133) ( 0.453)
合 計	133	0.842

期中の平均基準価額は、15,722円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

## 【組入上位 10 銘柄】

(2019年6月4日現在)

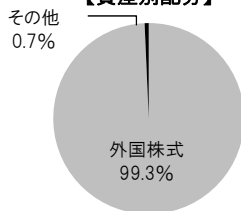
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	アクシス銀行	銀行	インド・ルピー	インド	6.6
2	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インド・ルピー	インド	6.5
3	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インド・ルピー	インド	6.2
4	ICICI銀行	銀行	インド・ルピー	インド	5.0
5	HDFC	銀行	インド・ルピー	インド	4.5
6	タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	インド・ルピー	インド	4.3
7	インドステイト銀行	銀行	インド・ルピー	インド	4.1
8	マルチ・スズキ・インディア	自動車・自動車部品	インド・ルピー	インド	3.1
9	ブハルティ・エアテル	電気通信サービス	インド・ルピー	インド	2.9
10	シュリーセメント	素材	インド・ルピー	インド	2.4
	組入銘柄数		52銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

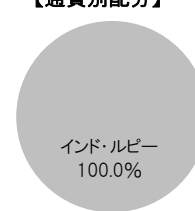
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



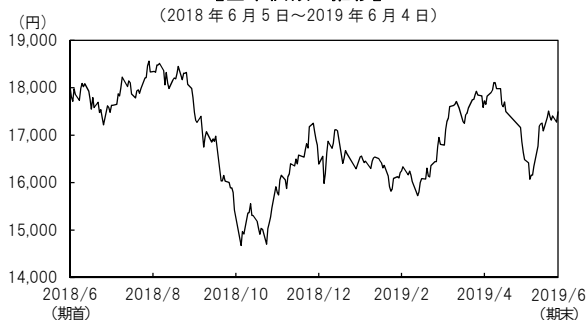
(注1) 基準価額の推移、組入上位 10 銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは 2019 年 6 月 4 日現在のものです。

(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

## LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年6月5日～2019年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	5 (5)	0.029 (0.029)%
(b) 有価証券取引税 (株式)	10 (10)	0.060 (0.060)%
(c) その他費用 (保管費用)	15 (15)	0.091 (0.091)%
合計	30	0.180

期中の平均基準価額は、16,911円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

## 【組入上位10銘柄】

(2019年6月4日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	HDFC銀行	銀行	インド・ルピー	インド	7.3
2	コタック・マヒンドラ銀行	銀行	インド・ルピー	インド	5.4
3	ICICI銀行	銀行	インド・ルピー	インド	5.3
4	HDFC	銀行	インド・ルピー	インド	5.1
5	バジャジ・ファイナンス	各種金融	インド・ルピー	インド	4.6
6	ITC	食品・飲料・タバコ	インド・ルピー	インド	4.4
7	チタン	耐久消費財・アパレル	インド・ルピー	インド	4.3
8	バジャジ・オート	自動車・自動車部品	インド・ルピー	インド	4.0
9	ピディライト・インダストリーズ	素材	インド・ルピー	インド	3.9
10	シュリラム・シティ・ユニオン・ファイナンス	各種金融	インド・ルピー	インド	3.9
	組入銘柄数	27銘柄			

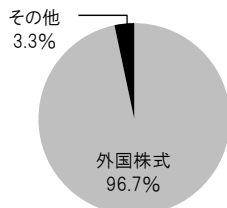
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

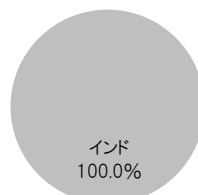
(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※HDFC銀行はHDFCのグループ企業です。

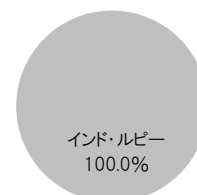
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2019年6月4日現在のものです。

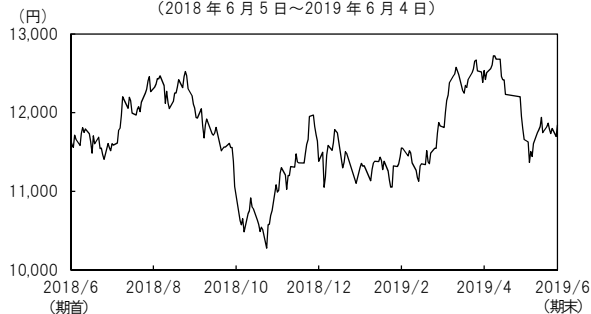
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

## SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

## 【基準価額の推移】

(2018年6月5日～2019年6月4日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年6月5日～2019年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	171 (171)	1.460 (1.460)
(b) 有価証券取引税 (株式)	88 (88)	0.750 (0.750)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	90 (90) (0)	0.773 (0.773) (0.000)
合計	349	2.983

期中の平均基準価額は、11,703円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

## 【組入上位10銘柄】

(2019年6月4日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	HDFC銀行	銀行	インド・ルピー	インド	11.2
2	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インド・ルピー	インド	9.4
3	HDFC	銀行	インド・ルピー	インド	8.2
4	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インド・ルピー	インド	6.1
5	ICICI銀行	銀行	インド・ルピー	インド	5.8
6	タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	インド・ルピー	インド	5.2
7	ITC	食品・飲料・タバコ	インド・ルピー	インド	4.9
8	ラーセン&トウプロ	資本財	インド・ルピー	インド	4.1
9	コタック・マヒンドラ銀行	銀行	インド・ルピー	インド	3.8
10	アクシス銀行	銀行	インド・ルピー	インド	3.1
組入銘柄数			31銘柄		

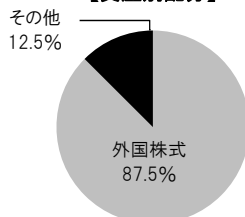
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※HDFC銀行はHDFCのグループ企業です。

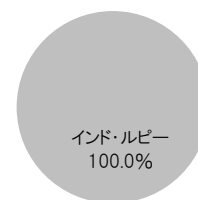
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2019年6月4日現在のものです。

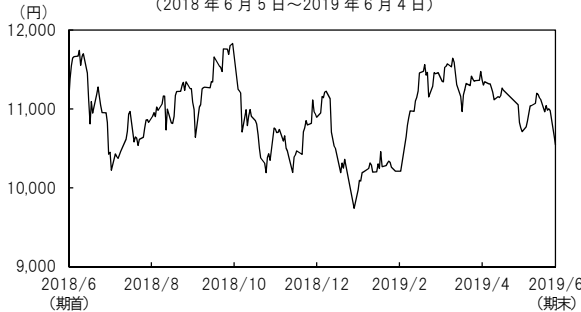
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

# SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

## 【基準価額の推移】

(2018年6月5日～2019年6月4日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年6月5日～2019年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	2 (2)	0.021 (0.021)
(b) その他費用 (保管費用)	12 (12)	0.106 (0.106)
合計	14	0.127

期中の平均基準価額は、10,973円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

## 【組入上位10銘柄】

(2019年6月4日現在)

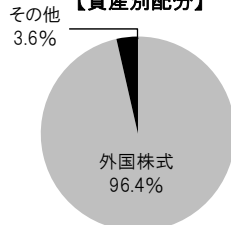
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	ピンググループ	不動産	ベトナム・ドン	ベトナム	14.8
2	ベトナム乳業	食品・飲料・タバコ	ベトナム・ドン	ベトナム	13.9
3	ベトナムバンク	銀行	ベトナム・ドン	ベトナム	8.7
4	ペトロベトナムガス	公益事業	ベトナム・ドン	ベトナム	6.7
5	サイゴンビール・アルコール	食品・飲料・タバコ	ベトナム・ドン	ベトナム	6.5
6	ベトナム航空総公社	運輸	ベトナム・ドン	ベトナム	6.4
7	ピンホームズ	不動産	ベトナム・ドン	ベトナム	6.0
8	マサングループ	食品・飲料・タバコ	ベトナム・ドン	ベトナム	4.4
9	ベトナム投資開発銀行	銀行	ベトナム・ドン	ベトナム	3.6
10	ベトナム石油総公社	エネルギー	ベトナム・ドン	ベトナム	3.5
組入銘柄数			23銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

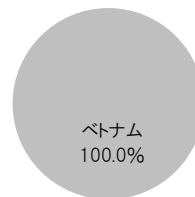
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

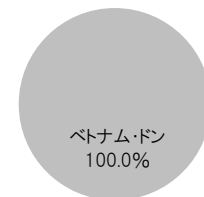
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2019年6月4日現在のものです。

(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。



### ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### ○東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### ○MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)は、MSCI inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

#### ○FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### ○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P.Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。